

# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年8月5日

上場会社名 図研エルミック株式会社

上場取引所 東

コード番号 4770 URL <http://www.elwsc.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 朝倉 尉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 江口 慎一

TEL 045-624-8111

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	303	△5.7	△35	—	△35	—	△25	—
25年3月期第1四半期	321	26.6	△60	—	△59	—	△60	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△3.99	—
25年3月期第1四半期	△9.64	—

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	908	542	59.7	86.29
25年3月期	904	567	62.7	90.30

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 542百万円 25年3月期 567百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	690	0.3	0	—	0	—	0	—	0.00
通期	1,600	6.0	50	—	50	—	40	—	6.36

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	6,284,944 株	25年3月期	6,284,944 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	0 株	25年3月期	0 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	6,284,944 株	25年3月期1Q	6,284,944 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期貸借対照表関係) .....	7
(四半期損益計算書関係) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、経済政策や日本銀行の金融緩和策により円安・株高基調となり、消費者マインドこそ改善されつつありますが、長期金利の上昇もあり、一足飛びに民生機器の需要拡大までには至らないまま推移しました。

当社が属する情報通信・エレクトロニクス業界におきましては、クラウドサービス向けデータセンターやスマートフォン普及に伴う通信インフラなど一部で設備投資が堅調となる分野が存在しましたが、設備投資減税等は実現せず、またこの先の金利上昇懸念もあって各企業は投資に慎重な姿勢を継続し、事業環境は低調なまま推移しております。

このような事業環境の中で当社は、通信ミドルウェアライブラリ製品を中心とするミドルウェア製品事業、モジュール製品とCベース設計向けビジネスを中心とするハードウェア製品事業、そしてFAネットワーク向けビジネスと通信ボード製品を中心とするFA製品事業のそれぞれにおいて、製品開発とその需要獲得、販路拡大のための海外を含むアライアンスの強化に力を注いでまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高3億3百万円(前年同四半期比5.7%減少)となり、損益面では営業損失は35百万円(前年同四半期は営業損失60百万円)、経常損失は35百万円(前年同四半期は経常損失59百万円)、四半期純損失は25百万円(前年同四半期は四半期純損失60百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、前第2四半期累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております

#### ・ミドルウェア製品事業

当事業では、IPセキュリティ機器向けONVIF対応製品は堅調に推移しておりますが、車載機器向けMirrorlink対応製品やエネルギーマネジメント・システム関連製品が商談こそ拡大傾向にあるものの、本格的な売上には至らないまま推移いたしました。

この結果、売上高は1億53百万円(前年同四半期比77.5%増加)、セグメント利益は69百万円(前年同四半期比63.2%増加)となりました。

#### ・ハードウェア製品事業

当事業では、Cベース設計向けビジネスの需要が拡大いたしました。ハードウェアIPの新製品が、需要先各社の慎重な投資機運のため売上が伸び悩みました。

この結果、売上高は1億円(前年同四半期比45.9%減少)、セグメント利益は26百万円(前年同四半期比32.9%減少)となりました。

#### ・FA製品事業

当事業では、COM通信ボード・ISDN通信ボードが小売業向け機器への搭載需要の堅調さに支えられ売上が拡大いたしました。FAネットワーク向けシステム製品の需要は回復しないまま推移いたしました。

この結果、売上高は48百万円(前年同四半期比0.4%減少)、セグメント利益26百万円(前年同四半期比5.2%増加)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は、9億8百万円となり、前事業年度末に比べ3百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少1億5百万円があったものの、投資その他の資産のその他に含まれている長期前払費用の増加61百万円、流動資産のその他に含まれている前払費用の増加47百万円等によるものであります。

負債の部は、3億65百万円となり、前事業年度末に比べ28百万円増加いたしました。これは主に、訴訟損失引当金の減少72百万円、買掛金の減少28百万円があったものの、長期前受収益の増加85百万円、流動負債のその他に含まれている前受収益の増加56百万円等によるものであります。

純資産の部は、5億42百万円となり、前事業年度末に比べ25百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金の減少25百万円等によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

情報通信・エレクトロニクス業界の各社においては、円安の定着により海外での価格競争力が改善されつつありますが、一方で消費税増税の個人消費への影響が懸念され、先行き不透明感は払拭されておられません。

このような事業環境の中で当社は、製品の開発販売を一層強化して収益力を高め、組込コア技術のリーディングカンパニーとしての地位を確立させることを目指しております。

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年5月7日の決算短信にて開示しました予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	304,650	323,924
受取手形及び売掛金	* 418,992	* 313,071
有価証券	63,115	63,123
商品及び製品	14,172	14,725
仕掛品	16,553	18,111
原材料	930	858
その他	23,763	68,558
貸倒引当金	△443	△443
流動資産合計	841,735	801,930
固定資産		
有形固定資産	11,945	11,224
無形固定資産	25,425	23,624
投資その他の資産		
投資有価証券	13,010	4,800
その他	18,996	73,104
貸倒引当金	△6,649	△6,649
投資その他の資産合計	25,356	71,254
固定資産合計	62,726	106,104
資産合計	904,461	908,035

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	90,866	62,032
未払法人税等	6,982	2,156
賞与引当金	46,440	27,131
製品保証引当金	43,439	26,239
訴訟損失引当金	72,320	—
その他	63,527	149,764
流動負債合計	323,576	267,324
固定負債		
長期末払金	3,431	3,431
長期前受収益	264	85,517
退職給付引当金	2,998	2,998
その他	6,655	6,416
固定負債合計	13,349	98,363
負債合計	336,926	365,687
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,202,036	1,202,036
資本剰余金	81,886	81,886
利益剰余金	△716,483	△741,575
株主資本合計	567,438	542,347
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	96	—
評価・換算差額等合計	96	—
純資産合計	567,535	542,347
負債純資産合計	904,461	908,035

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	* 321,787	* 303,520
売上原価	214,528	180,664
売上総利益	107,258	122,856
販売費及び一般管理費	167,586	158,322
営業損失(△)	△60,327	△35,465
営業外収益		
受取利息	15	19
受取配当金	140	160
助成金収入	1,155	—
その他	1,023	113
営業外収益合計	2,334	292
営業外費用		
為替差損	1,010	283
その他	691	38
営業外費用合計	1,702	322
経常損失(△)	△59,695	△35,496
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,655
役員退職慰労金返還額	—	9,670
特別利益合計	—	11,325
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純損失(△)	△59,695	△24,171
法人税、住民税及び事業税	945	945
法人税等調整額	△27	△25
法人税等合計	917	919
四半期純損失(△)	△60,612	△25,091



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

※ 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	2,500千円	882千円

(四半期損益計算書関係)

※ 売上高の季節的変動

前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)及び当第1四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

当社の売上高は、通常の営業形態として、第4四半期会計期間に完了する業務の割合が多いため、四半期会計期間毎の売上高に季節的変動があります。